

第③章 札幌水道のあゆみ

札幌水道のはじまり

札幌市は、母なる川「豊平川」に由来する豊富な地下水に恵まれ、市街地のどこからでも良質な地下水をくみ上げることができたと言われていました。

しかし、人口の増加と都市化に伴い、地下水の水質汚染が進み、公衆衛生の向上や消防水利の確保など、水道の必要性が高まったことから、昭和12(1937)年、札幌市を一望する藻岩山のすそ野に建設した藻岩浄水場から当時の札幌市の人口の約45%にあたる9万2千人に通水したのが札幌水道の始まりです。



創設期の配水管工事
(主に人の手や馬の力による)

拡張事業期

急速な人口の増加や豊平町や手稲町との合併による市域の拡大に伴い、札幌水道も大きく広がることとなり、市内最大の浄水場である白川浄水場を昭和46(1971)年に建設し、また、将来にわたって十分な水源を確保するために豊平峡ダムが昭和47(1972)年に建設されました。

さらに、給水区域の拡大に併せて、大量の配水管の布設や、宅地化の進む高台地区への給水を可能にするポンプ場や配水池などの整備を開始するとともに、さらなる給水需要の増大に対応するため、昭和53(1978)年には定山溪ダムの建設が始まりました。



豊平峡ダムの建設

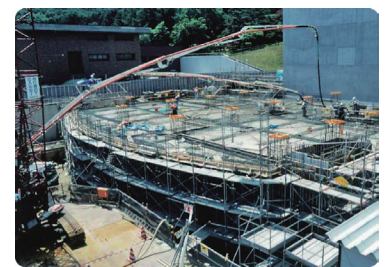
施設整備事業期

拡張事業期に続き、札幌水道は「ライフラインの確保」を主要なテーマに、給水サービスの向上や災害対策の充実を目指し、施設整備に取り組んでいます。

平成元(1989)年の定山溪ダム完成後、今後の増加が予想される水需要に対応するため、白川浄水場を段階的に増強するとともに、水道局庁舎等への緊急貯水槽の設置を進めました。

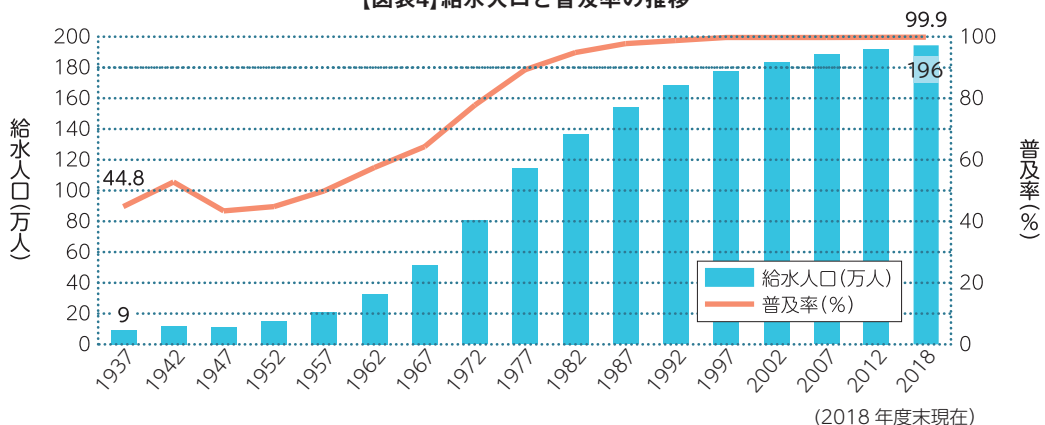
平成4(1992)年からは水源を確保するため、石狩西部広域水道企業団に参画しています。平成15(2003)年には藻岩浄水場の改修がしゅん工し、同年からは送水ルート多重化と耐震性能の確保を目的とした白川第3送水管の新設に着手しました。

水道創設から80年以上が経過し、札幌水道は給水人口が約196万人となり、水道普及率はほぼ100%を達成するなど、全国でも有数の水道事業に成長しており、市民生活や都市活動を支えるライフラインとして必要不可欠な存在となっています。



藻岩浄水場改修工事(平成9~15年)

【図表4】給水人口と普及率の推移



(2018年度末現在)

年表 札幌水道の主なできごと

年号	西暦	できごと	年号	西暦	できごと			
明治	43	1910	臨時水道調査委員会設置 (9月)	昭和	55	1980	第6期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月)	
大正	8	1919	水利権の許可申請 (6月) 事業認可申請 (上水道事業・電気事業併営) (7月)				北部配水事務所開設 (4月) 南営業所開設 (4月)	
昭和	6	1931	水利権の許可取得 (3月) 上水道事業・電気事業併営案可決 (11月)	58	1983	1983	白川第2浄水場拡張 (7月)	
	8	1933	電気事業案廃止 (北海水力電気株式会社へ 水利権譲渡) (8月)	59	1984	1984	藻岩浄水場水力発電所完成 (3月) 第7期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月) 清田配水池通水 (7月)	
	9	1934	水道事業の認可、着工 (2月) 水道部設置 (3月)、起工式 (6月)	60	1985	1985	料金業務にオンラインシステム導入 (4月) 藻岩第1浄水場、白川浄水場が近代水道百選に選ばれる (5月)	
	12	1937	水道条例施行 (4月) 藻岩第1浄水場通水 (4月) 上水道工事しゅん工 (6月)、落成式 (7月)	61	1986	1986	給水人口 150 万人突破 (5月)	
	24	1949	放任給水制から全戸計量制への切り替え 着手	62	1987	1987	緊急貯水槽設置 (2月) 水道局本局庁舎落成・創設 50 周年記念式典 (10月)	
	29	1954	第1期拡張事業認可 (6月)、起工 (9月)	63	1988	1988	第1次施設整備事業着手 (4月) 白川第3浄水場通水 (6月)	
	32	1957	水道法制定、水道条例廃止 (6月) 局制施行 (7月)	平成	元年	1989	1989	定山溪ダムしゅん工 (10月)
	33	1958	藻岩第2浄水場通水 (8月)	2	1990	1990	南部配水事務所開設 (4月)	
	35	1960	第2期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月)	3	1991	1991	検針業務にハンディターミナル導入 (4月) 厚別営業所開設 (4月)	
	36	1961	豊平町と合併、月寒・定山溪・平岸水道の 継承 (5月)	4	1992	1992	石狩西部広域水道企業団設立許可 (3月) 第2次施設整備事業着手 (4月)	
	39	1964	隔月検針・徴収制の採用 (4月)	6	1994	1994	手稲営業所開設 (1月) 西部配水池通水 (10月)	
	40	1965	給水装置に水抜き栓採用 (4月)	8	1996	1996	第3次施設整備事業着手 (4月)	
	42	1967	水道事業管理者を置く (1月) 手稲町と合併、手稲・手稲東水道の継承 (3月) 第3期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月) 料金の納付制の採用 (4月) 給水人口 50 万人突破 (8月)	9	1997	1997	白川第3浄水場拡張 (7月) 藻岩浄水場改修着工 (9月) 給配水技術研修所完成 (10月)	
	46	1971	4カ月検針、料金の口座振替制の採用 (4月) 西野浄水場通水 (4月) 配水センター完成、白川浄水場通水、 平岸配水池通水 (7月)	11	1999	1999	電話受付センター開設 (12月)	
	47	1972	第4期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月) 中央、北、白石の3営業所開設 (4月) 豊平峡ダムしゅん工 (10月)	12	2000	2000	第4次施設整備事業着手 (4月)	
	50	1975	白川浄水場拡張 (6月) 給水人口 100 万人突破 (7月) 西営業所開設 (12月)	14	2002	2002	隔月検針の採用 (4月)	
	51	1976	第5期拡張事業認可 (3月)、起工 (4月) 加入金制度新設 (4月) 東部、西部配水事務所開設 (5月)	15	2003	2003	藻岩浄水場改修工事しゅん工 (3月)	
	52	1977	水道記念館開設 (7月) 豊平営業所開設 (12月)	16	2004	2004	札幌水道長期構想策定 (3月)	
	53	1978	給水普及率 90%突破 (3月) 東営業所開設 (12月)	19	2007	2007	水道記念館リニューアルオープン (5月) 藻岩浄水場水力発電所運転再開 (9月)	
	54	1979	水質試験所完成 (2月) 白川第2浄水場通水 (10月)	21	2009	2009	白川第3送水管 (1期事業) 通水 (3月)	
				22	2010	2010	携帯プリンタから納入通知書の出力開始 (9月) 料金のクレジットカード制の採用 (10月) 平岸配水池耐震化工事着工 (5月)	
				23	2011	2011	機構再編により、8庁舎を6庁舎に集約 (7月)	
				24	2012	2012	豊平川水道水源水質保全事業の工事着工 (12月)	
				25	2013	2013	水道記念館累計来館者数 50 万人達成 (5月)	
				27	2015	2015	宮町浄水場耐震改修工事しゅん工 (3月)	
				29	2017	2017	平岸配水池耐震化工事しゅん工 (2月) 水道記念館累計来館者数 100 万人達成 (8月)	
				30	2018	2018	検針業務等にスマートフォンを導入 (6月)	